

演題名	持続可能な介護サービスの継続を目指して		
施設名	介護老人保健施設ライフサポートひなた	(ふりがな) 発表者(職種)	(あわじ たいき) 淡路大貴(介護福祉士)
(ふりがな) チーム名	(さくげんのきわみ) ～削減の極み～		
分類	④無駄の削減や能率向上、業務環境の改善をめざすもの		
取り組み種別	問題解決型		
改善しようとした 問題課題	排泄用品の使用量が多く、購入金額が高い問題		
改善の指標と その目標値	(指 標) 「排泄用品の購入金額」  (目標値) 「排泄用品の購入金額を10%削減」		
実施した対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・失禁を減らす為、排泄表を使用し毎月アセスメント</li> <li>・使用物品を判定する為、ディスカッションし毎月アセスメント</li> <li>・トイレ使用の継続の為、毎日立ち上がり訓練の実施</li> <li>・排泄用品のコスト意識を共有する為、毎月集計し周知</li> <li>・御家族様に布パンツの良さを説明し、布パンツにスムーズに移行する為の書類を作成</li> <li>・適切な排泄間隔を知る為にDfreeの導入</li> </ul>		
改善指標の 対策実施 前後の変化	(実施前) 「排泄用品の半年間の購入金額の1カ月平均は22万2000円」  (実施後) 「排泄用品の半年間の購入金額の1カ月平均が19万4000円で13%の削減の達成」		
歯止めと 標準化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な排泄用品を使用する為に、排泄委員会が毎月1回ミーティングで選定する</li> <li>・トイレ動作の維持の為、リハビリスタッフが毎日立ち上がり訓練を実施する</li> <li>・削減する為に、排泄委員会が毎月1回排泄用品の購入金額をフロアミーティングで周知する</li> <li>・入所時に今後布パンツに移行する為、介護職員が御家族様に説明する。</li> <li>・排泄間隔を適切に把握する為、継続してDfreeを適宜活用していく。</li> </ul>		
活動の種類 ※複数選択可	①職場単位の活動 ③テーマに合わせて形成したチーム活動 ④組織全体で取り組んだ活動	チーム メンバー (職種)	1 川本 裕幸 介護福祉士
活動の場 ※複数選択可	②支援部門 ③管理部門		2 淡路 大貴 介護福祉士
活動期間	令和6年10月から5月		3 福元 貴俊 ケアワーカー
リーダー名 (職種)	川本 裕幸(介護福祉士)		4 井上 愛 理学療法士
活動回数	8 回		5 澤下 礼 管理栄養士
			6 7 8 9 10 11 12 13

## 1. テーマ選

◎...5点 ○...3点 △...1点

	重要度	緊急度	実現度	利用者満足度	施設方針	総合得点
排泄用品削減	◎	○	○	◎	◎	21点
残業時間削減	◎	◎	○	△	◎	19点
下剤費用削減	○	○	○	◎	○	17点
水道代削減	◎	◎	△	△	◎	17点
光熱費削減	◎	◎	△	△	◎	17点
衛生費の削減	○	◎	○	△	○	17点

施設運営を持続的に運営していく為に施設経営改善は必須であり、経費削減は最も重要なテーマです。今回行ったテーマ以外にも削減に取り組むテーマもでしたが、マトリックス 図で点数化評価し、チームで最終的に今回のテーマに決めました。Our teamとなり、おむつを含めた排泄用品の使用を減らすことで経費削減ができれば、超強化型である介護老人保健施設として在宅復帰に向けた入居者の状態改善を行うことができるの

## 2. 現状把握



## 3. 目標設定

いつまでに	令和6年5月末までに
何を	施設入居者の
どうする	排泄用品の購入金額を <b>10%削減</b>

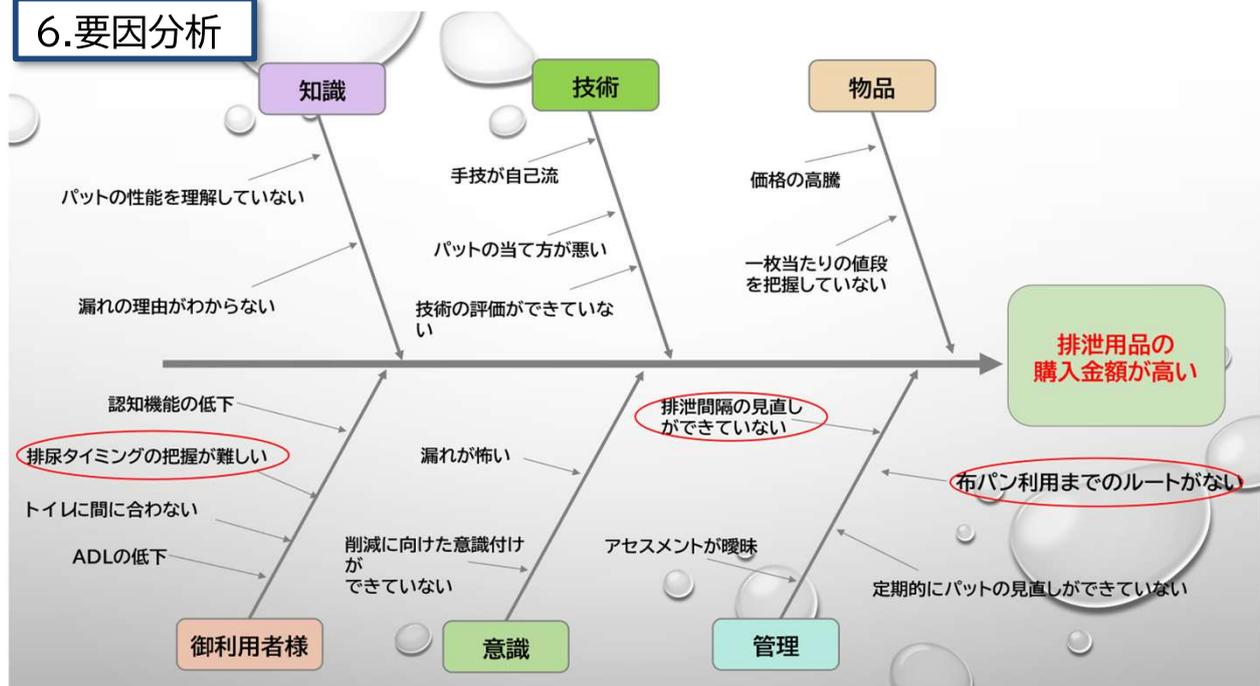
## 3. 目標設定の根

排泄用品の削減に向け、まずはリハビリパンツ使用者0を目指そうという話になりました。前年度半年間のリハビリパンツ購入額を基に、達成し

## 5. 前年度の取り組み後の標準化と管理の定

	何を	なぜ	誰が	いつ	どこで	どうする
標準化	排泄用品の見直しを	適切な用品を使用する為に	排泄委員会	毎月1回	ミーティングで	選定する。
	誘導時間の見直しを	失禁を減らす為に	フロアスタッフ	適宜	フロア	判定する。
	立ち上がり訓練を	トイレ動作維持の為に	リハビリスタッフ	毎日	フロア	実行する。
管理	排泄用品の金額を	削減する為に	排泄委員会	毎月1回	ミーティングで	周知する。
教育	適切な排泄用品の選定方法を	職員が理解できるように	排泄委員会	半年に1回	施設内で	研修を行う

## 6.要因分析



前年度に排泄用品の購入金額が高い要因を解析し、取組後にも課題が残った3つの重要要因を洗い出した

- ① 排泄タイミングの把握が難しい
- ② 排泄間隔の見直しができない
- ③ 布パンツ利用までのルートがない

## 7.対策実施

	why	what	when	where	who	how
<b>1</b>	布パンツに移行する為	本人・家族説明	入所時	会議室	生活相談員	書類を使って
<b>2</b>	適切な排尿間隔を把握する為	Dfree導入	毎月	会議室	QCメンバー	ディスカッション

1. システム作りに取り組み、御本人と御家族様に**向け布パンツのメリットの説明**

2. 適切な排泄用品の選定や、排尿間隔のアセスメントの精度を向上させる

## 7.対策実

布パンツの大きな3つのメリット

トイレトラブルの減少

コスト削減

快適性の上昇

事例1

A様 日中トイレ誘導しており、夜間はベッド上でパット交換を行っている。

事例2

B様 日中はトイレ誘導しているが、パット内失禁が多く汚染が頻回にある。

★ ←排泄介入

★ ←トイレ誘導

A様の夜間排尿間隔データ

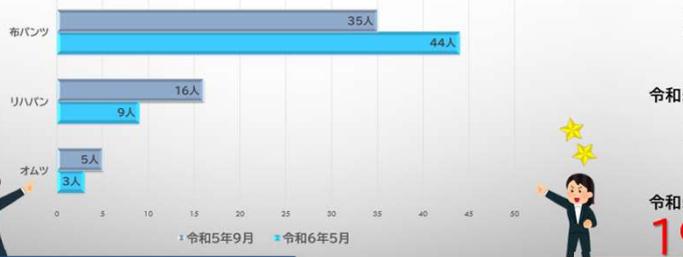


B様の日中排尿間隔データ



## 8.効果の確認(有形効)

○排泄用品の使用量の削減



○排泄用品購入額の削減

令和4年4月～令和4年9月の一月平均

26万7000円

令和5年4月～令和5年9月の一月平均

22万2000円

令和5年10月～令和6年5月の一月平均

19万4000円

取り組み後  
約30%  
削減!

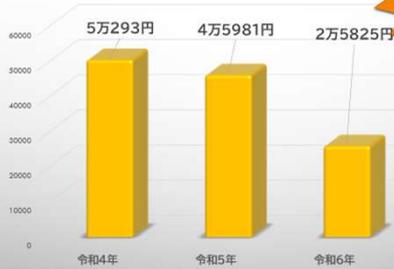
約17%削減!

目標達成!!

約13%削減!

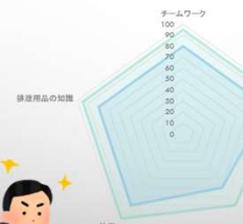
## 9.効果の確認(波及効)

録音ごみの金額一カ月平均



令和4年から  
約51%  
削減!

## 10.効果の確認(無形効)



## 11.標準化と管理の定

オレンジ色が新規取り組み

	何を	なぜ	誰が	いつ	どこで	どうする
標準化	排泄用品の見直しを	適切な用品を使用する為に	排泄委員会が	毎月1回	ミーティングで	選定する。
	誘導時間の見直しを	失禁を減らす為に	フロアスタッフ	適宜	フロア	判定する。
	立ち上がり訓練を	トイレ動作維持の為に	リハビリスタッフ	毎日	フロア	実行する。
標準化	Dfreeを	排泄間隔を把握する為	介護職員が	適宜	フロア	実行する
管理	排泄用品の金額を	削減する為に	排泄委員会が	毎月1回	フロアミーティングで	周知する。
管理	入所時のシステムを	布パンツに移行する為	介護職員が	入所時	面談室で	説明する。
教育	適切な排泄用品の選定方法を	職員が理解できるように	排泄委員会が	半年に1回	施設内で	研修を行う。

## 12.反省と今後の進め

手順	良かった点	悪かった点	今後の進め方
テーマの選定	-	-	3か月に1回のアンケートを取り、課題を発見する。
現状把握 目標の設定	-	-	データの目的を明確にし目標を設定していく
要因分析	普段気づかれない問題点を見ることができた	-	より多く分析ができるようにする
対策の立案・実施	多くのスタッフが立案・実施することで、問題解決への意欲が向上した	Dfreeを活用した際一人にかかる時間が多かった	毎月の会議で実施可能な対策を立案・実施し、改善へつなげていく
効果の確認	目標を達成することが出来た。取り組みが効果に反映されたことで継続意欲が向上した	業務負担が増えた	適宜効果を確認し、削減度の高い対策を精査していく
標準化と 管理の定着	多職種での協力ができ、チームワークが向上した	-	各担当者同士での協力関係を構築し、全体での取り組みを強化していく